

会員、来賓ら126人集う 県土コンが賀詞交歓会



年頭挨拶を行う佐々木会長

冒頭、佐々木会長が年頭のあいさつで、昨年を振り返り「私たち協会は昨年、会員各社に支えられ、40周年を迎えることができました。しかし、7月の西日本豪雨災害では、山間部を中心に大きな被害を受け、全力で測量・設計に取り組んできました。」と話した。また、本年に向けては「4月に施行される働き方改革関連法案では、新しい3K“給料”“休暇”“希望”が望める業界を目指し、発注者の理解と協力を得ながら、“業務量の確保”、“発注時期の平準化”、“納期時期の平準化”、“適正な工期の設定”の取組みに声を上げていかなければなりません」。

さらに技術的には「生産性の向上と就労環境の改善に向けて、点検・調査・設計・補償等におけるi-ConstructionやBIM/CIMの3次元対応を押し進めていく」と述べた。

次いで地元選出の国会議員や県議など来賓の祝辞に続き、同協会顧問の荒牧軍治氏(さが水ものがたり館館長)が、嘉瀬川河川敷の竹を伐採し、有明海の干潟に建て付着した

3次元対応や働き方改革

(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会(佐々木義文会長、29社)の新年賀詞交歓会が9日、佐賀市のグランデはがくで開かれた。会員と賛助会員計30社の関係者や国会議員などの来賓など126人が出席。会員の団結と今年1年の経営の安定と繁栄を願い、新年の挨拶や情報交換を交えて歓談した。



西村副会長の音頭による乾杯のようす

牡蠣殻で水質浄化する取り組みでの被表彰を紹介。「仕事でしっかり儲けて、日曜日は竹を建てに来てください」と話した。

そして、日本補償コンサルタント協会九州支部佐賀県部の西村博文会長(県土コン副会長)が乾杯の音頭を取り、祝宴に入った。